

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

こんにちは。9月定例議会の最後を務めます黒岩幸生でございます。

昔から終わりよければ、すべてよしという言葉がございます。しかし、残念ながら、九俣の功を一簣にかくという話もあるんですね。これまで13人の議員がすばらしくユーモアあふれる質疑をされたわけでございますけれども、最後の一簣、私が失敗すれば、武雄市議はそんなものかと言われかねませんので、そうならないように今回も前回同様、精いっぱい頑張っていきたいと思っております。

最初に、文字の訂正でございますけれども、「議事録の3D検索」としておりましたけれども、それ訂正してあるですかね。「行政事務全般の3D検索」についてでございます。

それから、今回のこの質問は、私は議員で37年になりますけれども、その中で一番大きな課題になると思って、少しばかり気負っております。これまで病院問題も大変でした。あるいは伊万里のあの炉を決めるのも大変な問題でしたけれども、それよりはるかに大きい問題としてしっかり提案していきたいと思っております。

私の最初の質問は、IT行政推進化についてでございます。ただいま言いましたように、すべての行政文書3D検索についてでございます。

検索というのは、御承知のとおり、パソコンによってこの文字がどこに書いてあるか、あるいはそういう関連のものを引き出すということでございます。よくICTと言われますけれども、私はIT、両方とも情報通信技術だということで、同じことだということでございますので、まだなれておりませんので、ITということを使わせていただきたいと思っております。

私がIT行政、電子化を進める大きな理由の一つは、検索機能を最大限に発揮できるからであります。今回の質問、質問というより、主張に近いかわかりませんが、それは文字や文書を物象化して3D、つまり、三次元的検索をすれば、検索時間や経費が大幅に削減される。また、会議内容を系統的や系列的に、しかも、なぜそうなったかなど絞り込んで検索したり、それを編集できるという質問でございます。

これまで私は、情報通信技術を駆使することで行政の簡素化、あるいはまた、住民サービスが飛躍的に伸びるのではないかと、さらには、武雄市民の皆さん方に対して住民サービスを心がけるならば、行政そのものをIT化すべきだと、これまでの議会ごとに提案をしてまいりました。私が目指すのは、市役所におけるペーパーレス、つまり、市役所そのものを電子化することです。そのことによって紙書類や行政文書の簡素化、さらに何回も申しますけれども、電子化すれば、その電子化が持つ検索機能を最大限に発揮できる、そしてまた、データを保存しやすい、そういう理由からIT化しようということでございます。

時間の都合がございますので、早速質問に入りますけれども、そこでまず、整理の意味を込めて、市長にお伺いですが、市長は、ペーパーレスを目指した行政やITを駆使した行政を目指す私のこの主張に対して、どのように思われますか、まず最初に質問をいたし

ます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

（パネルを示す）これはどうでしょう。3月11日に被災をして68人の方々が亡くなった陸前高田市役所の中です。これ私が一般の者として初めてここに足を踏み入れて、もうこれは今報道されていますので、あえて使わさせてもらいますけれども、これは紙で保存しとったら、こがんなるわけですよ。これを見たときに、なお一層、黒岩議員がおっしゃるペーパーレス化、IT化、これはもう私は全面的に賛成です。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

整理の意味でございますけど、まず、教育長に一言整理をしておきたいと思います。

これまで私が議会の中でiPad、あるいは電子黒板をぜひとも山内に取り入れてほしいと、この前質問しましたね。そういうことで市長は早速予算をつけていただきまして、当時は電子黒板は民主党は反対だったんですね。事業仕分けで削ったんですよ。しかし、市長は理解していただきまして、予算をつけていただきました。そして、教育長は早速山内東小学校ですか、それから、武内などなどでiPadや電子黒板での事業を進めてこられたんですね。

しかし、今となってはほかの学校もぜひともうちもしてくれという話もあるところですけども、これは7月14日、佐賀新聞に載った内容でございますけれども、佐賀県もやはりITに力を入れているんですね。ICT先進教育県へということで目指してございます。県独自のシステムを構築したと。これは致遠館中学校がモデル校らしいですけども、各自に情報端末、あるいは電子黒板、さらに電子教卓を与えているという話なんですね。

そしてまた、これは9月2日の新聞でございますけれども、ICT活用ということで、武雄青陵中の話が載っていましたね。武雄青陵中が実証実験校に選ばれたと。ここは中高一貫校でございますので、中高連携して「ウェブを通し学び合い」という見出しで書いてあります。内容といたしましては、武雄市の武雄青陵中が総務省と文科省が公募したフューチャースクール、このフューチャースクールというのは、元総務大臣の原口代議士は一生懸命これに力入れられておったものですね。あちこちでよく聞きました。それと学びのイノベーション事業、これの研究校に選ばれたということですね。内容といたしましては、本年度から3年計画の事業で進めると。さらに、全国で武雄青陵中を含む中学校8校、特別支援学校2校、10校のうちに選ばれたんですね。大変な快挙だと思うんですね。

そこで、教育長にお伺いですが、このようにiPad授業を初めとするIT授業と

言ったらいいですかね、そういうことができる学校をもっともっとふやしてほしいと思えますけれども、教育長はどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

私も、この電子黒板、i P a d等を使った授業、子どもたちの学習意欲、それから、学力向上等含めまして、子どもたちの育つ今後を考えた上でも、極力取り入れていけるだけ取り入れていきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

やっぱり子どもころからITに親しむ、自分のものとする、手足のごとく使うと、これはやっぱり大事だと思うんですね。やっぱり小さな、うちの孫であっても、取り扱い読み切らなくてもひねりますもんね。だから、そういうことからならしておくのが必要じゃないかと思えます。

市長にお伺いですが、それから、MY図書館構想も打ち出しました。これは図書館の本を電子化することで、自分の家において、そして、その図書館の本を読めることになる。あるいはまた、これを移動図書館として利用できる。もちろん、このときも著作権問題、横にはたがっていますね。しかし、大きな将来を考えたら、そうすべきだという話もしましたし、さらに、古文書が非常に保存しやすい、破れにくいなどなどの利点を上げながら、ここで質問しました。市長は早速、幾らやったですか、1,781万円ですね、当時、国からその予算を引っ張ってきてもらったんですね。非常に反省しているのは、そのとき我々が言って、そして、市長が一生懸命された。そして、我々は何もしとらんとですね。やはりそこではIT推進特別委員会ぐらいつくって、やっぱり一緒に市長としていかにやいかんかと反省をしとる。だから、今回、牟田議長さんのほうにIT推進特別委員会をつくってほしいという申し入れをしております。この9月議会で必ずできると思えますけれども、そういう体制を議会としてもするつもりでございます。

しかし、残念ながら、せつかく市長が1,781万円持ってこられたんですけど、約2,000万円ぐらいの事業だったと思えますけど、これを税金の無駄遣いだとする議員もおられるんです。そして、それを自分の持っておられる通信で流されたんです。だから、「武雄市はそんな税金を使っているのか」という話も私のところに来たんですね。「それは違いますよ。この分については研究費として市長が国からもらってきたんですよ」と言いましたけれども、そこで、市民の皆さん方に誤解のないように、予算の性質や中身について再度説明をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

また、これもまた宮本栄八さんという議員にもううそ、でたらめ書かれて、もう本当に困っていますよ。ちゃんとといいます。

市の負担は188万8,000円であります。しかし、「宮本栄八通信」というんですか、私はまともに読んだことありませんけれども、あそこに2,000万円近く書いて、予算の無駄遣いと書かれたわけですね。しかし、先ほど黒岩議員から御指摘があったように、全体の1割なんです。2,000万円近くはすべてこれ国の交付金なんです。具体的に言うと、光をそそぐ交付金であります。その予算が1,969万9,000円なんです。ですので、全部これ国費というわけいかんわけですね。必ず最低でも1割は市が負担をなささいというのが補助金の本旨なんです。繰り返しになりますけれども、そういうことをちゃんと書いた上で出さないと、もう私はそれを出す資格はないと思いますよ。宮本栄八議員さんにおかれては、それは反省を強く促したいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

前に進みましょう、前に。もう一緒ですからね。言っても一緒ですよ。

市長、もっと大きなことですから、きょうはですね。電子書籍化について、さらに考えを進めていけば、先ほど言いましたように、MY図書館のみならず、検索次第では物すごいことができるなという考えになったんですね。そういう発想をしております。扱い方次第ではIT行政そのものが、全世界のですよ、飛躍的に推進していると言っても決して過言でないと思っております。

そこで、まず最初に、ITに関する考えを市長と一緒にちょっとすり合わせしたかですよ。なぜかといえば、私、ITに全く素人ですね。市長さんはフェイスブックの会長ですか、ツイッターの会長ですか、もう雲泥の差ですので、これは質問の中でいろんなことが認識を一致しておきたいと思いますので、最初に資料の説明からいきたいと思いますけれども、まず、ずっと飛ばして7番目、7枚目をお願いします。（パネルを示す）これですね、この文書です。市長さん、これですよ。7枚目。市長さん、この意味ですけども、右側に書いているのはすべての行政文書という意味なんです。今から言うのは、行政文書とか本とかすべてですよ。あらゆるものだということを思ってください。それを真ん中に書いてあるのは、これはスキャナーですね。これをスキャニングして、そして、それを電子化してすべてのサーバーにおさめる。つまり、すべての書式、いろんな書式をスキャニングして、そして、すべてのサーバーにおさめるということまで御理解してください。いいでしょうか。

次に、今度は6になるですかね。(パネルを示す)資料の6ですけれども、この意味はいろんなパソコンからのいろんなデータをすべてサーバーに上げると、上げているということを考えていただきたいと思うんですね。すべてサーバーに持っていく。今からサーバー等の話をしますので、ここに持っていくということを書いているつもりですね。もちろん、直接PCにはスマートフォンとかは介入できませんからね。

それともう1つ、次の書類、逆に5になるですかね。(パネルを示す)5番目の資料ですけれども、これはそのPCの持った情報をすべてサーバーに投げた、そのサーバーをクラウド化する、別のところに置いておくという話ですね。この右側のほうの×をつけておりますのは、先ほど市長さんが写真で言われたそのものなんですね。せっかく電子化しても、サーバーを地下室に置いていたために流されてしまった、紙文書を流されたということ。これはだめですよ。そういうことをうちの会派で今度沖縄に行ってきました。沖縄はサーバーを預けるのに一番よいところなんですね。それはまず地震が来ない。そして、もう1つは、距離が離れているために、同時災害がない。だから、どちらか助かるという考え方でその沖縄が今データが物すごく集まるんですね。震災前と後では10倍に膨れ上がったんですね。そして、最近では霞が関の行政文書が物すごくふえたということでございます。

それから、もう1つですね。もう1つ、物すごく説明しにくいのでお願いですけれども、そのサーバーがすべてこの箱(箱を示す)に入っているということで御理解をさせていただいてよかでしょうか。ありがとうございます。

それでは、質問に入っていきますけれども、冒頭申しましたけれども、3D検索、これは辞書にないんですよ。私が勝手につくりましたからね。つまり、3Dというのは三次元世界のことなんですね。それで、いろいろ考えて3D検索という言葉をつくりました。

それで、主張しますけれども、3D検索をすれば、先ほど言いましたように、検索時間があつという間で、検索時間が短縮になる。そして、経費も安くなる。物すごくいろんなものが大幅に変わってくるということですね。また、大事なことはここですけれども、会議内容を系統的に、あるいは大事なところは、なぜそうなったのかという検索は今できませんね。これがなぜそうなったかという検索もできるようになるんですね。このことは後で力説しますけれども、だから、具体的に絞り込んで検索したり、その編集ができるんですね。今回はこの点について力説をしていきたいと思えます。

最初言っておきますけど、もちろんこのことは私だけの思いつき理論じゃない。いろんなCIOの方、情報統括監ですね、数人の情報統括監とお会いしましたし、もちろん武雄市の山崎CIOともいろいろ話をしています。そしてまた、IT技術者、あるいはIT検索の特許を持った方たち、大学の先生もおられます、学識経験者ですね。そういう方々と話をしながら、一つの理論を持ってきているということをまず最初にその説明をしておきたいと思えます。

そこでまず、3D検索という言葉から入っていきますけれども、御承知と申しますけれども、3Dとは三次元ですね。では、一次元、二次元、三次元、四次元もあるかわかりませんが、一次元とは線なんですね。これは少し幅があります、面ですけど、線です。その一次元の世界におれば、敵が攻撃するのを2カ所でとめることができますね。逆言えば、ここを攻めるのには2カ所から攻められますよと。たった2カ所、距離が幾らということなんですね。そういう感覚です。

二次元の世界、二次元の世界は面なんですね。面ということは、御承知のように、縦と横、この文字ですね。縦と横、二次元の世界で身を守るためには、縦と横を守れば済むんですよ。しかし、ここを攻撃するためには、つまり、検索ですね。ここを検索するためには横と縦から検索することができるんですね。

では、3D、三次元、三次元というのは何かといいますと、縦と横、言いましたね。つまり、奥行きですね。三次元というのはXYZ軸であらわしますね。だから、このXYZのこの分（箱を示す）が出てくるんですね。これが大きく変わるんです。今まではこの面だけ守っとけばよかった。あるいは最初は線ですね。それで、面を守るようになった。しかし、立体になれば、それこそ四方八方、縦、横、高さ、3カ所、いわゆる四方八方から敵の攻撃を防がなきゃいかん。ということは、四方八方から検索ができるということなんです。今まで縦と横からしかできていないね。だから、どこにあるかぐらいしかできなかった。それが3D化することによって大きく変わるという意味でございます。

3D、今はやりですね、いろいろね。ほかにもいろいろありますけれども、例えば、3Dコンピューターグラフィックスですね。これは三次元モデルをコンピューターのディスプレイなどに擬似的に実現したものです。それから、3Dモデリング。これは三次元を考慮した設計を行うこと。

この前、何日前ですかね、供養でいこと会った。いとこ1級建築士なんですね。それに話した、「ヒロキ」と言って話ばしたぎですね、「いや、今、車みんなこれですよ」って。車とか、エンジンとか、どの部分を外すかに物すごいやっぱり神経使うんですね。いかに軽量化——だから、この「3Dモデリングやなかなかもうだめですよ。今の設計図はもう既に立体設計ですよ」という話をされた。「ああそういうもんや、一度見せてください」と話をしたんですけども、そういうことが進んでいる。

さらには、3Dフォト、フォトグラフと言うんですかね、立体写真。それから、3Dはがき、市長さん、3Dはがき見たことありますか。この前、事務局の川久保さんから持ってきていただいたですね。見たら、やっぱり浮き上がって見えるんですよ。アドバルーン、あれは思わず手で触りたくなる。しかし、二次元の世界ですね。それからまた、3D映像、3D音響、3D映画。今は進んでましようけど、昔、見よったら、やりが飛んできたらよけよったですね、あれが立体映画ですね。それとまた、今、3Dテレビなどなど3Dはもう上

げられていますね。

ここで大事なことは、いずれも平面、二次元の世界に三次元として映されておる。この感覚が大事なんですね。

それで、既に医学の世界ではいろいろ利用されているんです、これは。もう3Dというのはですね。繰り返しますけど、もともと文字や文章というのは平面の世界ですよ。二次元の世界です。それを立体化する。それを立体としてとらえ、文字に奥行きを持たせるんです。そしたら、3D検索、それが3D検索になるという発想なんですね。

だから、そこで、市長にお伺いですが、このように物体でない文字や文章を物体化して検索する、そういう方法があってもいいと思いますけれども、どのようにお考えですか、答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あつていいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

どういうことかといいますと、これは（本を示す）例えば、おもちゃの絵本としますね、おもちゃの絵本。こう見たら、二次元の世界がおもちゃはいろいろかいてあるですね。「アパンマン」、「ゴーオンジャー」いろいろありましょう。今、うちの孫は「ワンピース」——ワンピースって海賊ですよ、このワンピースじゃないですよ、物すごく凝っているね。そういうのがここに載っているとしますね。これを物象化する、立体させる。おもちゃになす。おもちゃの絵を。そうすれば、どういう現象が起こるかといいますと、（箱を示す）おもちゃ箱になるんですね、この本が。おもちゃ箱になれば、だれでも上から見て、その仮面ライダーが何人、ゴーオンジャーが何人、そしてまた、「ワンピース」を何人と分けることができますね。上から見れば、三次元で見れば分けることができます。

同じ理屈ですが、これが（本を示す）今度は動物の絵本としますね、動物の絵本。動物の絵本であれば、トラさん、クマさん、いろいろかいていますね。それは二次元です。これを立体化して考える。そうすれば、この本は、そうですね、（箱を示す）今度は動物園になるんですね。あるいはまたサファリになる。そういうことになれば、これを哺乳類とか、爬虫類とか、いろんな系列に分けることができますね。ここまでは御理解いただけだと思いますけれども。

このように、まだあとありますけれども、まず、ここまで、時間もありますので、このように文字や文章を3D検索すれば、これまでとは全く違った世界、全く違った検索、今言い

ました仕分けできる、上から区別できる、そういうことになると思うんですね。そうすれば、全く違った世界が開けると思いますけれども、重ねて質問いたしますけれども、どのように思われるか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどの御説明で8割5分ぐらいわかるようになりました。一番大きなのは、例えば、農業でいうと、1つの単語を入れると、これが例えば、土地区画整理事業であるとか、農地・水であるとか、そういう箱というか、分けができるということが恐らく3Dの話だと思います。これで間違いないでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）9割5分まで達しました。

○議長（牟田勝浩君）

質問の途中でありますが、議事の都合上、午後1時20分まで休憩いたします。

休	憩	12時
再	開	13時19分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

23番黒岩議員の質問からお願いします。23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

午前中からなるだけつなげたいと思いますけれども、先ほど休憩時間中に牟田議長さんからありがたい言葉をいただいたんですけれども、やっと3Dということわかったばいということで、非常に力強くしているところでございます。

今言いましたように、立体化することによって3D検索ができるおもちゃ箱の話をしましたですね。しかし、この3D化することで、もう1つ大きな利点につながっていくということをお話していきたいと思っております。もちろんこれが今回の本当の私の一番大きなねらいでもございます。

3Dの効果といいますかね、そういうことを話してみたいと思っておりますけれども、それは先ほども少し触れておりますけれども、会議の流れを立体的、あるいは系列的に、そして、絞り込んで検索ができるという話なんです。これまでの検索というのは、先ほど昼休みがありました、継続しますけれども、1枚ずつページをめくって、どこにあるかって二次検索だったんです。これを今度は一遍に検索するという考え方なんです。

つまり、先ほどこれが（箱を示す）おもちゃ箱になりますよって言ったんですね。これがおもちゃの絵本であれば、それを立体化すれば、おもちゃ箱を上から見るのと一緒ですよ。そうすれば、おもちゃの種類に分けることができるという話はしました。あるいはまたこれ

が動物の絵本であれば、それを動物として見れば、この本を今度は種類別に分けることができると言いましたね。

今度はこの箱の中に砂が入っているとしますね、砂。もう御存じですね、わかりますね。そしたら、その砂の中から砂鉄だけを抜き取るという考え。じゃ、どうすればいいか。砂鉄であったら簡単ですね。磁石持ってきてくりゃいいですね。磁石を持ってきて上からつけば、その砂鉄だけを抜き取ることができるという発想なんですよ。

同じ発想で考えれば、今度はこれを（本を示す）歴史の本だとします。歴史の本ですね。これが歴史の本であれば、いろんな登場人物いますね。いろいろいます。戦国武将もいます、いろいろおられます。その中に、例えば、先ほどみたいに、だれでもいいですけども、例えば、坂本龍馬なら坂本龍馬をそれだけを検索しようという考え方なんです。それに関連するものを引き抜くという感じ。そうすれば、先ほどおもちゃを言いました。砂鉄等の引き抜くという考え方をすれば、この箱の中から（箱を示す）坂本龍馬に関連するものをすべて抜き取ることができるという発想なんです。とても平面な二次元の世界ではでき得ない考えなんです。

だから、先ほど言いました。おもちゃを選別する、砂鉄を抜き取る、ここまでの発想ですけども、このことをつまり、どう言いますか、本の上から選別する発想、私にはできません。恐らくほとんどの方できないと思うんですね。しかし、これは先ほども言いましたように、ITの技術者、あるいはまたIT検索の特許を持った人たち、さらには大学の先生もそこにおられます。そういう方たちと理論上詰めた結果なんです。理論を実践するのは技術者、専門家なんです。我々はできれば理論を積み重ねていくのが大事だと思うんですね。

このように文字や文章の検索にとどまらず、会議の流れが抜き取ることができる、これが一番大きな3D検索ね。なぜそうなったのかなどを抜き取ることができる、これは最初言ったところですね。そういうことができるということになるんですね。

それで、今度もう少し別の角度からですけども、検索と資料に振りかえてみますけれども、先ほど言いましたように、市長さん二次元の世界だったですね。縦と横からしかどうしても検索できないんですよ。しかし、（箱を示す）Z軸がふえただけで、今度はほかのところから、あらゆるところから検索、たったZ軸がふえただけですよ。（「わかった」と呼ぶ者あり）ありがとうございます。ということなんです。今までここが丸だったとしますね。丸にもいろいろあるですね。二次元の世界は丸。こっちから見ても丸だったとしますね。こっちから見ても丸だといったら、中に入っているのは球ですね。球ですね。あるいはまた、ここが丸だった。しかし、こっちから見たら長四角だった。あるいはこっちから見たら長四角だったといえ、この中に入っているのは円柱なんです。それだけ絞り込んで検索をできるという発想なんです、立体化すれば、Z軸がふえるだけで、あらゆることが、先ほど言いましたように、どこの箇所からでも攻めることができる。どこの箇所からでも検索ができ

ることになる。大幅に変わるんですね。

今まで皆さん、すべて議事録検索、今されますけど、縦と横でどこに書いてあると、それを見つけ出してコピーするだけだったんですね。それが立体的、系列的にできるという話でございませう。

それから、けさふと思ったんですけれども、思いつきで質問しちゃいかんですけども、これまで紙文書、紙の書類の中で、例えば、難しいのは、今まで何々を参照してくださいと書いてあったんですね。広辞苑を参照してください、カタログを見てくださいと書いてあったんですね、文書に書けないですから。しかし、今、パソコンの画面には、ここをクリックすること書いてあるですよ、リンクしてくださいと。ちょっと朝思ったんですね。ここに例えば、先ほど市長が言われた日産のあれ何ですか、電気自動車、これは日産電気自動車と書いてあったら、ちょっと後ろに挟めていますね、これは後で次の質問する予定だったんですけど、ここにリンクすれば、これが（パンフを示す）パソコンの画面では出てきますね。今までの紙文書的思考だったら、絶対これが出てきません。これはどこから出てくるかといえば、これこそ三次元のほかのところなんですね。これがこのZ軸に入っている。この紙の後ろにちょうどこれが入っているわけですね。こういうことになる。つまり、これはサーバーですから、すべての文書があるわけですからね、当然、この中には入っているわけですね。それをここから引き抜くように、クリックするように、先ほど砂鉄を抜くように抜けば、すべての会議録が出てくるという考えなんですね。

3D化するということは、お互い共有しているすべてのサーバー、先ほど当初市長さんと上げましたけれども、合わせましたけれども、それに絶えずリンクしている、だれでもですよ。だから、ここから自由にだれでも検索できるんですね。今までみたいに紙文書であれば、何ページの何ということしかできませんので、系列的に引っ張らなければ膨大な資料から検索できないということ。だから、絞り込むことができる。縦、横、高さからですね。という発想でございませう。これを概念の物象化という話をされたんですね。哲学ってあんまりわからなかったんですけれども。

もう1つ、立体化でだれでも考えたら1回ぐらいはされているかもわからんというのは、カテーテル検査、心臓ですね。私、去年になりますかね、嬉野医療センターでカテーテル検査を受けて、そのとき思ったんですけれども、この心臓を見せませう。平面な画面でしょう。しかし、ここから入れて、血管が立体的に出てくるんですよ。しかし、そこが悪いところがあれば、そこにステントというんですか、入れて膨らますことができるんですね。実際見ているのと一緒に状態で、もう医学では既にしているんですよ。しかし、画面は平面ですよ。しかし、その平面な画面に心臓の後ろの血管、それがぐるっと回って正面に見えるんですね。この発想なんですね。

だから、ここは大きな違いですけれども、だから、このところは繰り返しておきたいと

思いますけれども、これまでの文字や文章の検索は、あくまで先ほど言いました二次元の世界で、どこにあるかということなんです、どこにあるか。だから、なぜそうなったかと調べるためには、いろんな資料を何回も寄せますね。何回も検討して初めてその経過がわかることになってくると思うんですね。

実は苦労したのが、ある自治体ですけれども、入札が途中で取り下げになった話なんですね。それは私が伊万里のガス化溶融炉じゃないですけれども、焼却炉、それをつくりたいためにいろんな勉強をしていたんですね。ある自治体ですよ。朝一番に告示しとって、4時ごろ入札取り下げととですよ。びっくりして、なぜそうなったか調べるために、実は事務局の力もおかりしたんですけど、3年分のその特別委員会の資料を取り寄せたんですよ、出てきませんので。そして、ずうっとして、いいのだけチェックして行って、そして、理由がわかったんですね。しかし、この検索の方式でいけば、いいですか、この検索の方式でいけば、例えば、伊万里で——いや、一番いいのは、流動床のガス化溶融炉だということではまかれたんですね。その後、ここでそういう論議も何もないですよ。ただ、私たちが私と松尾議員と一生懸命理論してきて、戦ってきたところに、いや、流動床式のガス化溶融炉が一番いいですよとぼんと投げられたんですね。それも簡単にできるんですよ、3D検索というたら。

後でまたゆっくり言いますけれども、1つは、3年分の議事録をとらなければわからなかった。じゃ、絞り込みができますからね。大きいサーバー、これに入っています。(箱を示す)この中から佐賀西部広域環境組合だけ抜き取るんですよ。それができますからね。先ほどの砂鉄を抜く要領です。そしたら、今度佐賀西部広域環境組合で流動床のガス化溶融炉も論議になっているはずね。それは担当者会議もあるでしょう。副市長会議もあるでしょう。あるいはまた首長会議ですね。武雄市議会でもやりました。さらには広域圏の組合でやるんですね。それで、この中から今度は流動床式のガス化溶融炉を引き出すね。そしたら、その議論されたところのガス化溶融炉が出てくるんですよ。これがオミットされたんですから、この欠点ということで入れれば、なぜ西部広域環境組合でこれが外されたかということができるとい話なんですよ。そういうものが3D化すればできるという発想なんですね。ちょっと余談、ほかのところに行きましたけれども。

だから、3D化検索をすれば、先ほどみたいな砂、あるいはおもちゃ箱の選別ですね、そういうことをすれば、必要な関連項目を一度に抜き取ることができるし、絞り込んで検索ができるということなんです。二次元を三次元ということなんですけれども、これが市長さん、概念の物象化ということだそうでございます。哲学で非常に難しゅうございますけれども、私の解釈では、物でない言語やものを物とする考え方、あるいはまた、理論上でしか存在しないものを物とする考え方ですね。私はそれくらいしか思いつきませんが、二次元を三次元にすることもあるんですね。実践理論に強い樋渡市長さんのこの概念の物象化ということについて説明があれば、よろしく願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は黒岩議員さんのように高尚な人間じゃありませんので、もう少しちょっとレベルを私ぐらいに下げて申し上げますと、例えば、これは非常に論議になった、あの市民病院の民間移譲を例にとると、市民病院の民間移譲としたときに、それを例えば、グーグルで検索しても、市民病院の民間移譲という言葉がひっかからないとやっぱり出てこないわけですね。しかし、私なりにずっと質問を聞いて消化したところによると、市民病院の民間移譲とした瞬間に、ここのタブレットの画面に、例えば、そこに議員ということを入れたとしましょう。そうすると、こっちに賛成の議員、反対の議員というのは多分出てくる。多分これが3Dなんです。そこに例えば、反対の宮本栄八議員というのをクリックすると、いろいろ出てきて、その中に例えば、「栄八通信」が出てきて（広報紙現物を示す）、このうそばっかり書いてあるのがこう出てくるわけですよ。ですので、そういうことが恐らく3Dだと思うんです。だから、言葉だけじゃなく、背後のことまで出てくる。私はいろんなところで、もう宮本栄八議員さんに関しては反論もしていますので、その反論も出てくるということになるかと思えます。

したがって、これは恐らく、私はどこまでこれが技術的にいけるのかというのは、これから一緒になって研究をしていきたいと思うんですけども、もしこれが本格的になると、これはもう検索の世界の概念を全部打ち破る、物すごいことになると思いますので、そういう意味では、本当にこれは期待をしたいなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

どうもありがとうございます。

今言いますように、市長がおっしゃったとおりですね。これまでは検索ということで非常にかっこいいですけども、単なる二次元の世界で探してきてコピーするだけだったんですよ。それが変わっていくということですね。だから、条件をつけて、このすべての書類から抜き取ることができる、このことなんですね。こういうことができるということですね。だから、先ほど言いました佐賀西部広域環境組合のことも、そういうふうになれば、なぜそうなったかまで一瞬にしてわかっていくことができるんですね。

それで、資料の1番をお願いします。

（パネルを示す）資料の1でございますけれども、下にいろんな書類を書いているのが、これがすべてのサーバー、資料1いいでしょうか、これですね。下にいろいろ書いてあるのがすべてのデータがこのサーバーに入っている。その中から、例えば、整備新幹線というこ

とを抜けば、整備新幹線の関連するものがすべて先ほどの砂鉄みたいに、ずるっと引き抜くことができるということですね。これが1つね。

もう1つは、次の資料2ですね。（パネルを示す）左側にいっぱい書類を持っていますけれども、これは先ほどみたいにもうサーバーに入れてありますからね、その資料の抜き方ですけれども、まず、例えば、整備新幹線と入れますね。そして、全部抜いて、その後で、じゃ、レールの方式はどうかといえば、それがまたその絞り込んで見える。そして、駅の施設とはいえば、新幹線の整備駅がこれが絞り込んで取り出すね。住民クレームはどれかと、それが出てきます。それをさらに、下から見てくださいね。今度、環境アセスメントから考えた方向でも抜き取ることができる。つまり、先ほど箱を言いましたね。どこからでも検索ができるということを書いております。

だから、会議というのは縦横無尽な会ですね。どこからでもいろんな資料を持って行って会議をいたします。それは現実ですね。そういう現実の会議に似たものが、今みたいに検索できるという発想なんですね。会議の流れそのものが、さっきの佐賀西部広域環境組合関係みたいに分かるということが出てきます。

そして、今までは縦、横の検索であんまり膨大な資料は対応できなかったですね。しかし、絞り込んで検索をできれば、資料は多いほどいいんですよ。もうすべて出る。世界じゅうのすべての資料をこれに入れば、みんながこれのできるようになるわけですからね。絞り込んでとれますから。ページじゃないですからね。先ほど言いましたように、ページを飛び越えて三次元でとれますからね。そういう世界が開けていくということでございます。

さらに、これは当たり前のことですけれども、次の資料をお願いします。

ちょっと議会にもサービスしとかにやるわっけんですね。（パネルを示す）これはいろんな会議があったにしますね。そして、これは山田太郎と書いて、山田太郎さんの発言集ということでつくろうと、自分の発言集をつくろうと思ったらつくれるということなんですね。ここで会議があった、ここで会議あった、あるいはまた、武雄で何かつくるとき会議あった、すべての会議を自分の会議録って、ずるっと引き抜くことができると書いているんですね、これはね。それと、例えば、武雄ビルに何かをつくろうとなったときに、じゃあ、地番がわかれば写真からなんからすべて下のほうからですかね、検索ができる。検索ができるし、自分のものとして飛び越えて、紙でないですから、飛び越えて、壁を飛び越えてとれるという発想なんですね。これを今度、先ほど言いましたように、自分のものとしてちゃんとつくっておくことができますよということなんです。このことについて、市長何かコメントがあればお伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、ちょっと間違いがあったら正していただきたいんですけども、これが革命的だと思ったのは、例えば、山田太郎という議員というのを入れると、今のパソコンだと、山田太郎議員というのが、ばあっと出てきます。それだけだったら、今までの二次元検索なんですけど、これがすごいのは、今、実は今度ウィンドウズ8も出てきます。今、タブレット出てきます。私もiPad IIを使います。これ何ができるかというと、これよろしいですか、出して。これすみません、白黒で恐縮なんですけれども、恐らくこれが（資料を示す）画面として出てくる、これが。そうすると、何でそれを私が力説するかというと、タブレットの場合は、iPad IIみたいなやつですね。それを例えば、ここ、申請受け付けというところを押すと、ここに申請受け付けが、だあっと出てくるんですね、多分。これが今技術的にも可能なんです。ですので、繰り返し言いますが、今まで検索というのは1つの窓に1つの言葉しか入れられなかった。しかし、今回、それを入れると、こういう地図が出てきて、それで、これを図として見たときに、3Dとして見たときに、これを押したときに、この広がりが出てくる、そういうイメージでよろしいんでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ほとんどそれと一緒にですけど、1つ大きな違いは、市長、大きな違いは、どうしても今まではページをよそから持ってきているということなんです。だから、私たちの会議録、議事録というとは、PDF、何ですか、ポータブル・ドキュメント・フォーマットですか、写真ですね。例えば、9月15日ですね、きょう。9月15日の議会はすべて1枚の写真として保存されているんですね。その中から持ってきているんですよ。今度も一緒ですね。恐らくほかの、今、タブレット、いろんなこと言われましたけれども、ヤフーでも何でもみんなその域を越えていないんですよ。これを越えるのが、当初言いましたように、この本を1枚1枚の二次元を上から透かして系列的に抜き取るということ。だから、行政文書は先ほど市長言われたように、ほとんど平面ですもんね。それは持ってきて、窓口をつくって、そこに入れば簡単にできますよ。それを検索する方法が壁を越える、ページを越える、立体化して見るということ。今、恐らく、少々のもので何百ページもあるのをどこからかページを持ってきている。しかし、抜き取ることによって、系列が変わってくるんですね。先ほどみたいに、横に絞ってきます。大きくとって、分けていける。その違いが出てくるんですよ。それはおいしいと思いますね。

では、実際、どのような比較になるかといいますと、実はここに、これも事務局からいただいたんですけども、会議録検索システムとあるんですね、会議録検索システム。これは今、ナンバーワンと言われてはいますが、全国ナンバーワンですね。全国で四百二十余りの自治体が加入している。この検索はどのようになっているかといいますと、うちは入っ

とらんやったですね。これに入れば、摘出したい年代や会議、発言者を選択し、印刷ボタンを押すだけ。簡単にあなたの資料が集まりますと、こうなっているんですね。膨大な資料からこれを集める。しかし、これはあくまで縦、横ラインが多いだけです。だから、その人の発言をその箇所を見つけて、そこをコピーするという考えなんです。この検索はですね。しかし、今、3Dというのはちょっと悪く言いますと、それをみんなごちゃ混ぜにするわけですね。悪く言えば。そして、必要などころだけ抜き取ると、それが二次元と三次元の違いですね。

まあいいですけども、その必要なページを抜き取ってコピーすること、膨大な量ですので、これに加入していると、420の自治体が加入しているですね。しかし、これは1ページ当たり、先ほど私3年分とったんですよ。そしたら、やっぱりそれだけ要るわけですね。そのくらい検索したんですけども、1ページ当たり、これだったら200円ですね。これが1ページ当たり、検索料が200円、ここに書いてあります。過年度分データ作成料1ページ当たり200円。本が二、三百ページのを今電子化するのに200円ぐらいという話ですね。一度電子化してしまって、この中に入れば、みんなが共有できるんです。そこにリンクすればとれますからね。物すごい経費も変わってくるとはもう目の前ですね。ここは革命的なことだと思いますよ。検索する方法もそうですけれども、そのページ印刷代がそうなる。これも違うところなんですね。

だから、繰り返しますけど、どこでもいいですけども、二次元であつたら、そこを持ってきてくれるだけですよ。先ほど歴史の中、本で言いましたように、上から系統的に抜き取ることができ、先ほど資料1で言いましたね。なかなかイメージわかないと思いますけど、ここにもう何やかんやまじっていると、それから自分の好きなだけ抜き取る。抜き取ったものからまた抜き取ることができる。ずうっと絞り込みができるということです。今まで平面でしたけど。このZ軸が出ただけそれだけ変わるということをぜひわかっていたいただきたいと思います。

それができれば、先ほど市長さん言われていましたように、行政文書は簡単に抜き取れるということですね。それで、冒頭申しましたけど、この理論の裏には、数人の山崎CIO初め、その道のベテランの方と、私、全くわからない。わからないけど、こういう理屈だけは自分なりに考えて話をしたら、それはできるという話をされるんですね。できるはずということなんです。だから、私自身は震えるような思いですけども、IT検索の特許を持った人、IT技術者、うちの山崎CIO、それから、学識経験者、全く私からすれば雲の上の存在ですけどね。その方たちが、それはできるぞという話がありますので、市長、ぜひ行政文書の簡素化、IT行政の推進、ペーパーレスの武雄市、それをつくるため、日本初、いや世界初になるかわからん、これは。世界初ですよ、ないんですから、ということにぜひとも取り組んでほしいと思いますので、市長、決断、決意をお願いしたいと思います。答弁を

求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

98%ぐらいわかりましたよ。それで、今思ったのは、庁内に山崎C I Oに来てもらっていますので、彼を筆頭としてプロジェクトチームをつくります。その上で、例えば、議事録があつたりとか、行政文書があつたりとか、さまざまな文書が市にあります。だから、まず、庁内ですよね、庁内の文書をどこまでどうするかというのプロジェクトチームをつくるというのが、これが私がきょうお約束することです。

そして、これは議会にお願いですけれども、先般、黒岩議員からお話がありましたように、I Tの何でしたっけ（「I T推進特別委員会」と呼ぶ者あり）I T推進特別委員会をぜひ私からも牟田議長さんを初めとして、議会の皆さんたちにその設置をお願いしたいと思います。これはあくまでも行政と政治、議会と車の両輪で進めないと、これだけの波動が大きいものはなかなか進められませんので、ぜひ議会に市民病院の民間移譲の特別委員会を支援していただいたときのように、議会に私どもを支援してほしいと。そうすることによって、単に行政だけじゃなくて、皆さんたちは市民の代表でもありますので、市民の皆さんたち、地域の皆さんたちの目線がそこに反映されるということになりますので、9月いっぱいプロジェクトチームをつくりますので、ぜひ議会におかれてもそれをつくっていただければありがたい。そこで議会の中で議論をしながら、1個1個プロジェクトの、これ一気にできるような話じゃないんですね、1個1個積み上げていって、最終的には日本で初の地域発信型のこういう3D検索のシステムということになればいいなと思っていますし、行く行くはこのモデルを東北の被災地の市役所にもう無償で提供したいということを思っています。みんな書類が流されて困っている、また、つくるのもまたどうなるかわかんないということでもありますので、これをやっぱり温かい気持ちで、そのI Tもそういう気持ちで地域を支えるという一つのロールモデルになりたいと、かのように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

確かに東日本というのはいい考えだと思うんですね。市長、当時、義援金が配分されない、住民が把握できないから配れないと。いまだに配っていないでしょう。あつてはならないことなんですね。だから、そのときに市長がもうぜひ武雄の市民になしても、当時言われていましたね。ああいうことがI T化すればできていくと思うんですね。ぜひモデルというよりも、助けと言ったら怒られるかわかりませんが、一緒になって、行政そのものがなくなっていますから、逆言えば、一番やりやすいところですね。言葉は悪うございますけれども、

もう紙文書をつくるよりも、もうこれでいこうやという話ができる地区、特に陸前高田市か、よく言われるですね、そういうところとぜひ組んでいただいて、このこともよりできる。必ず、私、研究すれば研究するほど、毎日震える思いをするぐらいの内容ですので、ぜひやってもらいたいと思います。

最後に、もう一度、いろいろわかりにくいことあったと思いますけど、まとめますけれども、すべての書類を電子化するということから始まりなんですね。そうすれば、やり方によって、仕方によっては文字や文書を3D化することができます。そうすれば、ページをめくらずに、系統的に、系列的に上からずるっと引き抜くような検索ができる。このことをまずだれでも頭の中に入れてほしい。どうしてできるかは技術論者に任せます。ITの技術論者やITの検索特許を持ったいろいろな人がいますので、そこに任せるとしても、そういうことができるということを頭に入れていただきたいと思います。

これまでの会議というのはPDF、1枚の写真ですね。そこで縦、横から持ってきた、それをコピーしたのが我々が検索と言っていたことなんですね。探すというのはそこまでだった。これからはなぜそうなったか、絞り込むことによって、なぜそうなったかということが調べられるようになるんですね。そうなれば、これが効率的であるのは言うまでもないことなんですね。

さらには、今言いますように、3D検索というのは一つの流れを立体的、系統的に検索ができる。そして、先ほど言いましたように、これ箱でしたけれども、共有するすべてのサーバー、リンクしていればだれでも見ることできるんですね。今まではこれはページでしたね。目次というのは、紙ですから、何ページですよ。しかし、これからはこのサーバーにつないどけば、ここに白紙と、こう書いてあるけど、白紙でいいんですよ。それを書きさえすれば、それを検索するね。これも考えたんですけども、ちょうど水族館の窓口からサバを探す、タイを探す、何を探索と一緒にことなんです。3D化。今までページですから、次のページが見えませんが、それは何ページに書いてありますよということだったのが、立体的、水族館で魚を探すと一緒。つまり、この魔法の箱じゃないですけどね、この中から書くことだけで探すことができるという発想なんですね。だれか会議のとき、ぽっと言ったんですね。じゃ、ドラえもののポケットと一緒にたいねって。あったらいいな、こんなものいいな、書きさえすれば出てくる。それと一緒になんです。まさにそれなんです。まさにドラえもん——ドラえもんを使っていいかどうかわかりませんが、あのあったらいいな、こんなものいいなと、探しさえすれば、それが出てくる世界はもう目の前なんですね。さっきのカテーテル検査も一緒ですから——と思いますね。

ぜひ武雄市でも積極的に取り組んでいただきたいと思います。私もぜひとも議長にお願いして、特別委員会をつくって、先頭になってこのことに頑張っていきたいと思います。

それで、次の質問に移りたいと思います。何分残つとつとかな。何分残つとつですか。

では、市民の皆さん方の安全・安心について質問をしてみたいと思います。

先ほど午前中に松尾陽輔議員からも話があったように、まず、今日、エネルギー問題についてでございます。

まず、今日求められているのは、エネルギーをいかに蓄え、いかに再利用することが、これが全世界の課題となっていると思うんですね。電子エネルギー、電力エネルギーだけ考えてみましても、蓄電池、これが今大きな課題となっているということですね。それはふと考えてもわかりますように、私は免許を取って何十年になりますけれども、バッテリー、昔のままですよ。あの大きさ何も変わらん。そしたら、これはチャンスですよ。必ずここに大きな発明、発見の要素があるということを確認いたしておりますね。

また、原発による電気のエネルギー、これは原発を容認する、容認しない、これもう別もんですね。そして、次世代型エネルギーをどうするかということに考えていかなければならない。原発を捨てる、捨てないは別としてもね。だから、フランスで、よそは放射能を出さない原発という話もしていますからね。それはそれでいいですから、旧態依然じゃなくて、次世代型のエネルギーに変えていかなきゃならない時代に来ていると思うんですね。

そこで、先日、おもしろいテレビを見たんですけども、ハイブリッド・ストラドルキャリア、（発言する者あり）ああ、市長さんも知らんとのあつですね。ハイブリッド・ストラドルキャリア、皆さん聞いたことあるですか、ハイブリッド・ストラドルキャリア、作業車ですよ。世界に1台しかない。それが何と博多港にあるんですよ。日本で1台ですね。考えたら当たり前の話かわかりませんが、これはモーターとエンジンで動かす作業車、作業車ですから、コンテナの上げおろしに使うやつですよ。上げるときは、例えば、エンジンばーっとかくつですよ、おろすときはどうしますか、重たい荷物をおろすときには皆さんブレーキかくつですよ。ブレーキかくつてしかちょっと思わんですよ。これはブレーキじゃないですよ。この重力でモーターを回すとですよ。（「なるほど」と呼ぶ者あり）そして、発電する。それは世界に1台しかない。考えれば、コロンブスの卵ですよ。言われたら、それだれでんでくるやろうが、今、世界に1台しかない。そういう考えですね。

先ほど市長さんも、雨水は後でいこうかね。

次、揚水ダム、これは天山と巖木ダムですか。上から昼間水を落として水力発電しますね。夜、余ったとき、この巖木ダムの水を上に揚げて、そしてまた、昼、電気が要るとき落とす、余ったとき回るといふ形をしていますね。こういうエネルギーの利用。また、先ほど市長さん言われましたように、屋根の上、屋根の上に降った水が地面に落ちてしまえば、Gが全部なくなりますね、重力が。逆に、途中で何か置いとって、そこに水をためれば、まだ位置エネルギーありますね、Gが保たれていますのでね。そしたら、ここに例えば、ホースをつければ、散水なんですよ。しかし、これを池に落としてしまえば、池からくむときは負のエネルギーですね。だから、このエネルギーを保存する、あるいはその負のエネルギーを再利用

する、そういうことを考えていかなければならないと思いますけれども、市長さん、ここでですけど、このように電力に限らず、使い捨てではなく、有効的に利用するという考えをぜひ啓蒙啓発に努めていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか、お伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう本当にそうだと思うんですね。先ほど松尾陽輔議員に答えましたように、若木町の太陽光村でそういう実証実験も踏まえてやりたいと思っています。先ほどおっしゃったとおり、水が流れてきたときに、例えば、そこにタービンをつけとくということになれば、そのタービンでエネルギーを出すこともできるんですね。単に流れるだけだと、もうそれは位置エネルギーが単にゼロになるだけなんですけど、そこにタービンをつけとくだけで、そこにエネルギーに転換できる。

それと、もう1つ先ほどありましたように、それが放水とかのシステムに加われば、それが多面的にまくことができるということで、これを市民の皆様方に目に見える形でやっていく。しかも、これは以前黒岩議員からも御指摘があったように、数値で示さんとだめばいということですので、例えば、これをやることによって電気代がこれだけ安くなるとか、これだけの発熱量が、カロリーが出てくるというのをわかりやすくそれをパネリングするというのが、デジタルサイネージ、電信看板ですよ——というのでも、もう安価でできますので、そういうわかる、見てわかるようなシステムを中に入れていきたいなというように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、日ごろから、先ほど今市長がおっしゃるように、有効利用するとか、何か考えようと思うことはいいと思うんですね。コロンブスの卵、立てきるか。立てた。だれでもそれはでくっよというといったですね。しかし、考えるのは、これはいなかった。先ほどのハイブリッド・ストラドルキャリアですか、世界に1台しかないというのは不思議な話ですよ。だれでも考えそうな話。それがなかなか考えつかない。だから、日ごろからの訓練だと思っと思うんですね。

先ほどの3Dの話をしましたけど、議長さん含めてですけど、ほとんどITに詳しい人は乗ってこない。自分の世界をちゃんとしとるからね。しかし、子どもと話せば、子どもはそうねって言うですよ。知らない人ほど、私みたいにね、純粹ですよ。だから、それが必要だと思っております。

それから、佐賀県というのはクリーンエネルギー、これを今推奨しとっですよ。特に電気

自動車という考え方をしております。つまり、EV-PHVの普及に向けてということで電気自動車を考えていますけれども、佐賀県は地球に優しいゼロエミッション社会の実現をテーマに、車を走らせる環境未来ゾーンの構築を目指し、地球温暖化対策の一環、さらには地域づくりや次世代産業の育成のためにも電気自動車の普及にしっかりと取り組んでいくという取り組みがされとるですね、御存じですね。

それで、初期需要の創設ということで、取り組み方針ですか、それには問題点と課題ということで、この電気自動車というのは、試乗体験者の声にある購入価格が高いという声を解消する必要があり、購入差額の一部補助を検討する。また、車内の静かさや加速性にすぐれているといった電気自動車のよさを実感していただくためには、まず、電気自動車の認知度を高めることが必要であると、こう言われているんですね。そのために、行政での率先導入、さらには導入費用の財政支援の検討、そして、重点モデル地区での集中導入という話になっております。先ほどの太陽光村って言われたですか、太陽光電力村やったですかね、（「太陽光村」と呼ぶ者あり）すみません、まだ覚えません。そういうところにしていくのもいいと思いますけれども、購入価格として、国が78万円、県が30万円の助成をしているということですが、佐賀県が言うゼロエミッション、このことについて市長はどのように思われるか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いやあ、古川知事もいいこと言いますね。いろいろたたかれていますけど、いいこと言いますよ。ゼロエミッションを一番県として進めているのは佐賀県なんですね。ちょっと私は横文字が得意じゃありませんので、ゼロエミッションとは廃棄物として捨てられているものを有効活用することによって、廃棄物の発生量を減らし、燃やしたり、埋め立てたりすることを極力減らすことということを書いていますので、極力負荷をゼロにするということがゼロエミッションだというふうに思いました。

そういったことで、ここは黒岩議員と私も認識が一致していると思うんですけども、それを概念とか考えだけじゃなくて、目に見える形で市民の皆さんたちが楽しんで喜んでそれに参加するというように持っていきたいなというふうに思っています。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それから、今、電気自動車の話をしましたけれども、東日本大震災では、電気自動車が役立つ。先ほども言われていましたけれども、それは電気自動車の蓄電池としての役割ですね。家庭からその電気自動車に入れて、その電気自動車から家庭に送り込むという発想なん

ですね。すばらしいと思いましたがけれども、又聞きしましたので、直接日産に行って、この自動車（パネルを示す）、電気自動車はどこにあるかわかりませんでしたので、日産リーフ、これを見に行ったんです。そして、いろいろそこで聞いてきました。ということで、これは家庭の電気から、市長さん持ってあるかわからん。家庭の電気から引いているところなんです。それで、後でこの車についていろいろ言ってもらっていいですけども、エネルギー対比をした表を持っておりますけれども、資料の8をお願いします。

（パネルを示す）電気自動車ということで日産リーフ、これは中型車なんです。何ccとありませんからね。これは24キロワットの蓄電池を持っている車です。それで24キロワットを充電させるためには200ボルトで七、八時間充電すれば200キロ走るという代物ですね。利点としては、先ほど言いましたように、乗り心地がよい、エンジン音が低いそうです、乗ったことありません。加速がすばらしいそうですね。何ととっても地球に優しい、CO₂を出さないということですね。それで、稼働費、動かす費用ですね、それが安いということですね。欠点としては、やはり価格が高いと、それから、発電場所が少ない。この価格が高いというのを聞いてみたら、やっぱり蓄電池なんです。蓄電池がやっぱり高いそうですね。だから、先ほど言いましたように、今度、世界各国でこの蓄電池の開発の競争になるということですね。

これは赤で書いております、右に書いてありますね、四角。つまり、エネルギー消費量を計算しました。200キロメートル走行するのに、エネルギー換算ですけども、ガソリン車だと、リッター15キロ走るとして、リッター140円とすれば、1,820円のエネルギーを使いますよ。しかし、電気料金のエネルギーというのは、その1キロワットが夜間電気で11円です。264円。つまり、車を動かすのに、200キロの中型車という物体を動かすのに、ガソリンならば地球の限られたエネルギーの中で1,820円のエネルギーを使いますよ。電気ならば、264円のエネルギーで済みますよという意味なんです。

さらに、これも事務局からいただいたんですけども、因幡電気さん、これは公表してあるからいいと思うんですけど、因幡電気さんが2.4キロワットアワーで蓄電池、これは100万円するんですね。2.4キロワットで100万円ですよ。先ほどの車は24キロワットです。計算すれば1,000万円なんです。蓄電池代だけ考えれば。それだけ日産は蓄電池に力を入れているそうございますね。

そこで、本題に戻りますけれども、先ほどこれ東日本では言ったかな、電気がないために医療機関動かなかった、あるいは人工透析ができなかった、亡くなられた方がいる。そう考えれば、この蓄電池を持つという意味から、武雄市で災害救助用の蓄電池、あるいはまた、移動用の蓄電池として備えても十分いけるんじゃないかと。ほとんど今電気来ていますね。しかし、車で行けて、電気がないとき、電気が必要なとき、この車を持っていけば、災害救助に役立つと思うんですね。

そこで、電力源の確保との考え方ですね。武雄市でも、県も進めているから、ぜひ災害救助用、まず、災害救助用をぜひ購入すべきだと思いますけれども、いかがでしょうか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、どう答弁しようか、まだ迷っているんですけども、その前に、考えをちょっと説明しながらまとめますけれども、これが幾つか蓄電池を込みにした車あるんですけども、これが日産リーフなんですね。（パネルを示す）これは先ほど黒岩議員からもありましたように、200ボルトのこれは何ていうんですかね、スタンドというんですかね、ですので、これは一応外のやつが出ていますけれども、家庭でも200ボルトの工事をやると、これができるようになります。

そういった意味で、どうしましうかね、私が陸前高田に行ったときに、結構、日産リーフに助けられたという話はいっぱい聞いたんですよ。あるいは福島もそうです。福島はなぜ助けられたかという、ガソリンが来なくなったと、その当時。それで、その前に日産が先回りして、この日産リーフを届けた。日産の考えはそれで移動手段というふうに思っていたみたいなんですけど、やはり電力ですよ、電力が極端に落ちるとということで、先ほど黒岩議員さんからあったように、これがまさに蓄電池がわりになったと、災害蓄電池がわりになったということを考えたときに、まず、武雄市においては3台購入をしたいと思います。3台購入をして、そのうちの1台を、1つは、これは移動用として、先ほどあったように物すごく環境に優しいんですよ。だから、1台は公用車のかわりにします。どうせ幾つかもう変えなきゃいけないのが出ていますので。それと、もう1台は蓄電、蓄電の実証実験をここでしていきたいというふうに思っています。もちろん、公用車としても使いますけれども、蓄電。それともう1つ大事なものは、これは古川知事も進めていますけれども、ぜひ市民の皆さんたちに乗ってもらいたいというふうに思っていますので、これは市民の皆さんたちに率先して乗ってってもらって、要はああこれがこれからの未来なんだということを体感していただくために、それは基本的には貸し出していきなというふうに思っています。県も1台貸し出していますので、それに右倣いたいというふうに思っています。

そうすることによって、広くこれからこれが広まると。ただ、これは日産リーフだけでいいのかということがありますけれども、今、三菱のi-MiEVでしたけっね、というのも出ていますので、車種については私どもにお任せいただきたいというふうに思っています。

そういったことで、電気自動車については、先ほど——これは繰り返しになって恐縮なんですけれども、牟田議長さんと松尾陽輔さんの若木町ですよ、若木町に今度太陽光村というのをつくりますけれども、その1つの、これはまだ私の個人的プランですけども、市の

財産としてそういった電気自動車を貸し出そうということも思っております。そういった中でどんどん市としても広げていくということはぜひ、やっぱりこれも被災地での経験を踏まえて、そして、先ほどの黒岩議員の御質問を踏まえて、そういうふうにかじを切っていくというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

やっぱり、市長さん、これは投資ですからね、決して惜しい金じゃないと思いますよ、市長さんね。これで1人、けがから助かったり、死ななかつたら、もうもうけもんですよ。だから、そういう意味で、投資ということで、ぜひとも前に進んでいただきたいと思います。静かにじゃなくていいですからね、電気自動車みたいに。だあーっ行ってください、お願いします。

それから、次は放射線被曝。玄海原発がある以上は避けて通れない放射線被曝について質問をしてまいりたいと思います。

万一、玄海原発から放射性物質が飛んできたときに、その放射性物質から武雄市民の皆さん方の生命や財産をどのように守るかという質問でございます。

福島原発は、結局は広島原爆の168倍分あったと、大したことないと言っていたのが、整理してみたら、168倍分あったと言われますし、先日の新聞報道では、1万5,000テラベクレル。テラというのは1兆ですね、だから、1京5,000兆なんですか、ちょっとわかりませんが、天文学数字ですけども、そういう放射能を出したということですね。

朝日新聞によりますと、8月18日の新聞です。8月18日の新聞に、甲状腺被曝、福島の子、1,150人のうち45%が甲状腺被曝していたんですね。甲状腺の怖いのは、甲状腺は成長ホルモンを出すんですね。だから、ヨウ素を取り入れるところなんです。だから、ヨウ素が放射性物質のヨウ素と普通のヨウ素と区別ができない。だから、子どもが取り入れやすいというのがだれでも知っていることですね。

それで、先ほどの甲状腺被曝でございますが、政府の原子力災害対策特別本部は、17日、8月17日ですよ、起こったのは3月ですよ、それを8月17日に、福島県子ども1,150人を対象に甲状腺の内部被曝で45%が被曝したことを明らかにした。検査は3月24日から30日にいわき市と川俣町、飯舘村でゼロ歳から15歳の子どもの対象に検査した。3月24日といえば、爆発してからもう何日たっているんですか。御承知だと思いますけれども、その甲状腺被曝のヨウ素剤、それを使うのは24時間以内なんですね、受けてから。だから、日本は17日にしないと決めたんですよ。間に合わないからですよ、私に言わせればですよ。政府はなぜやめたか知りませんが。という状態ですね。それと、問題となるレベルではないと説明した。問題でないとして説明したと言いますが、今まで内部被曝は何もわからんと政府は言いよっ

たんですよ。データがないからわからないと言っていた人が、問題ないから大丈夫だと。じゃあ、どれだけかということで数値を聞いたら、数値が説明されなかったんですね。そして、その説明を求める声が多いというのは、8月18日の新聞にこれは載っているんですよ。

それと、市長は9月5日に、E P Z圏外の武雄市、伊万里市、玄海有事の初の合同訓練ということで行かれたんですね。そしたら、武雄、伊万里市両市は半径10キロの現行E P Zの圏外に位置しているが、30キロ以上離れた地域でも被害が出ていることから実施を決めた。喜んだんですね。次を見てがっかりしましたけれども。しかし、これは冷却機能がすべて喪失して爆破するおそれがある、E P Zの考えですね。それで、向こうから逃げてきて、東川登の公民館で、避難場所ですよ。この避難場所で怖いのは——そして、長期間の避難所生活に備え、間仕切りも設置した。うちは避難場所どころじゃないと思いますね。

そしたら、避難場所で言うときたいのは、もちろん、津波と放射能との違いはありますけれども、今度の東日本大震災で、だれでも知っているけど、どことあえて言いません。ある学校が避難場所になっていたんですね、小学校ですよ。避難場所になっていたため、避難民がどんどんどんどん来るんですね。それで、その学校は逃げるのが30分おくれた。そして、大変多くの生徒さんが亡くなられたのを御存じですね。どこの学校か、あえて言いません。うちもそがんるとやなかろうかと心配ばしょっです。がんととき、市長さん、なし加担しんさったろうかにゃと思うたですね。

そして、見てみますと、樋渡啓祐武雄市長は情報の行き違いが幾つかあった。きちんと検証して改善する。来年以降も実施したい。しかし、放射性物質が、先ほど言います、30キロ圏外にも飛んできているということになって思いながら、今度一般質問通告をしました。そしたら、2日目の答弁やったですかね、市長が、だれか忘れてましたけれども、もう県とか、国とか言いよったけど、間に合わんで、自分が入っていくという考えを言われたんですね。私の質問は、つまり、30キロ圏外の武雄市といえども、放射能浴びるやないかと、何でこういうところかと言うつもりでしたけれども、そこに入って、将来そういうことに向かって放射性物質からの避難ということをその中に提言していこうという考えがあらわれるのじゃないかと思いますが、いかがでしょうか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ありとあらゆる場でこの話はもうしつこく言うてきます。北方町にお住まいの内科医で松本洋二先生ですよ、松本洋二先生に今回は原発の關係の避難のときに東大の中川恵一先生と一緒に問診をしていただきました。中川先生と松本洋二先生と私とで話したときに、これは風向き次第によっては、もうあれですもんね、もうまともにひっかかると。距離で言うと、飯館村と我々是一緒であります。ですので、風向きいかんによっては、ここはもう受け入れ

どころか、逃げんばいかんわけですよ。ですので、その判断をだれがどうするかを含めて、やはりそこはもうしつこくいろんな会議の場に、これは伊万里市長とも合議がとれていますけれども、ありとあらゆる場で我々が意見を言うていこうということを思いました。ですので、これはいつも黒岩議員がおっしゃるように、風向きの話は多分日本の中でも一番最初に言われたのは、私が知る限り、黒岩議員さんなんですね、地方議員の中で。ですので、それはそうだというように思っていますので。だから、どういうふうに逃げるかと。これは手段もあります。パニックになりかねないというのがありますので、それはいろんなところで発信をして、また、勉強もしていきたいというふうに思っております。

具体的な方策としては、災害姉妹都市の締結を大阪の市とやるということと、あと長崎ですよね、長崎の某都市とやるということで、今、最終的な調整に入っていますので、それが一つの回答になろうかというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

資料の、飛ばして9ですね。（パネルを示す）これが福島原発での放射能の量なんですね。これはもう一遍繰り返しますけれども、ベクレルというのは雨の降る量とってください。ぬれるのはシーベルトですね。だから、福島で放射能が降った量がこれはあらわされています。赤が300万から3,000万ベクレルですね。黄色が100万から300万ベクレル。緑が60万からのベクレルですね。チェルノブイリ、きのう質問ありよったですけど、チェルノブイリでは、その緑、緑から60万ですから、一番大きい緑からが強制移住か、強制避難なんですよ。強制避難したとは、148万ベクレル以上からですよ。川原議員が言われましたように、25年たっつていまだに入られない。148万ベクレルといえ、この絵を見てわかりますように、黄色ですよ。100万からですからね。だから、武雄市はまともに強制移住になる。（「そうそう」と呼ぶ者あり）同じのがあればですよ。だから、これは十二分考えていかなきゃならない。

市長さん、ぜひこのことを、すみません、これが福島をそのまま、福島であったらということで、これも6月議会に使いました。その玄海原発から武雄市、このような状況になりますよということでございますので、ぜひ今後、時間がないのでまとめますけれども、市長は何かのとき、鹿児島島の川内原発、あそこでスピーディによる実験もされているんですね。だから、スピーディによる今の風向きだったらどうか、福島原発ぐらいたいえば、スピーディだと直ちに出るんです。だから、恐らく北北西でしょう。北北西の風が吹いたとき、こっちへ来ますよ。武雄だけでいけませんので、同じ30キロ圏外含めて、唐津でも含めて、じゃ、スピーディを見てみよう。福島原発ぐらいたしたら、実際、モデルはどれくらいなるかと言ってもらえれば、スピーディで模擬が出るんですよ。あれを見たら、やっぱりぐあい悪うな

っごたっですね。そうして巻き込んでいただいて、やはり福島は福島の状態を、我々はやはり知るということが大事だと思うんですね。だから、市長さんがぜひ今の会議の中に入って、中から、じゃあ、ちょっと何かチャンスを見て、EPZもいいけど、このスピーディによる実験をして、それによる、それを見た避難をしようじゃないかということをごひ訴えてもらいたいと思うんですね。そうしなけりゃ、放射能は、市長さんも言われるように見えない、痛くもない、かゆくもない、ここにあるかわからん、そういう世界であって、見えない苦しみがありますので、ぜひともそうしていただきますようお願いして私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は終了いたしました。本日は……

〔23番「おれ、戻っとらんたいね」〕

すみません、申しわけないです。大変失礼しました。

本日の日程はすべて終了いたしました。

〔23番「議事進行」〕

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）

きょうで一応形上は一般質問終わるわけでございますけれども、きのう、実は松尾初秋議員の話をしましたね、ここでね。そして、まず、差し当たって会議を開きましょうということで、暫定的に会議を開きました。その結果は議長言わないですね。

それとまた、ケーブルワンの話。ケーブルワンで吉原議員さん、あるいは松尾初秋議員さんが映像が映らなかった。映らなかったのに対して、ケーブルワンさんのほうからは非常に申しわけなかったということが来ているはずなんですね。それをなぜ議場で言わないんですか。テレビを見ておられるいろんな人は何でだったろうかと思うから、一言あなたがここで言ってくれば、テレビを見ている人は、ああそういうことだったのか。ケーブルワンは、あなただけに頭下げたんですか、じゃあ。なぜそういうことを言わないんですか。これは前も言いましたね。あなたはその場は逃れるけど、その後の話は全部整理しないということですよ。きょう、平野議員も何か質問されたでしょう。昼休み精査すると、その後しましたか。

ということで、私は松尾初秋議員のきのうここで話しましたので、名誉に関することだと話しましたので、実際どうだったのかと、こういうことでしたと言っているじゃないですか。

それと、宮本栄八議員に対するきのうのあのやり方は何ですか。全く我々としてはわからない。どさくさ紛れじゃないですか。何でああいうことをやるんですか。やはりちゃんと、我々は、議場での一般質問は私は戦場と思っていますので、自分の思うことでやりますよ、質疑もやりますよ。しかし、たまにはうちの犬じゃないですけど、行き過ぎもあるかわから

ん。それは議長がちゃんと制止して、ここまでですよと決めるべきでしょう。市長が言うのに対して、私は言うこと聞かなかったとき懲罰受けても何ら文句言いませんよ。それを言わなかったら、きのう出て、だれか謝った人おるけど、まさに無法地帯じゃないですか。何でしないんですか。やりたくないんですか。やりたくなかったら議長やめなさいよ。だから、議長というのは、武雄市を代表する立場ですから、やっぱり興奮して言ったりしますよ、お互い。それをちゃんと制止して、裁いていく、その責任があるわけですから。何で言わないんですか。宮本議員が申し入れたからさせた。じゃ、うちの懲罰委員長はどうなるんですか。

あなたに上げたでしょう。文書を上げたでしょう。彼、拒否したじゃないですか。彼が言うことだけ入れるんですか。どういう采配するんですか、あなたは。ちゃんとした采配してください。そうしなければ、きのうもテレビ、だれでも見ているんですよ。見ているのに、松尾初秋議員が——それは確かに調べてみれば、結果わかりましたよ。副市長さんが笑いながらでしたので、「松尾初秋議員」と聞こえなかったね。「松尾初秋」となっとったですね。しかし、ほかの人がそれを見て、松尾初秋議員に「松尾初秋って言われよっよ」と言われたから、ここで話がなった。そしたら、長くなったから、私が迎えに来て、まず、会議を開きましょうやと開いたですね。その後の結果はちゃんと議長で整理して言うべきじゃないですか。

この3つについてどのように思われるか、答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

ただいま23番黒岩議員の議事進行についてお答えしたいと思います。

まず、松尾議員さんの、副市長さんの答弁において、敬称が抜けていたんじゃないかというところで、まず、事務局が持っているテープで検証いたしました。その結果、先ほど言われたように、テープのほうでは「松尾初秋議員」というふうな感じが入っている部分がありました。あと松尾議員さんがお持ちいただいたテープのほうで検証いたしましたら、確かにテープと録音のほうがちよっと若干違いまして、なかなか聞こえづらいというのがありました。その旨を副市長さんとともに検証しまして、さきの開会の前に副市長さんがこの場でわかりづらかったと、テレビのほうでは確かに聞きづらかったと、テープの入っているのなかなか難しいので聞きづらかったので、この場で言ったけど、聞きづらかったというのを言われました。松尾議員さんからいただいたテープでは、確かにその敬称の部分が抜けていたような形で聞こえる部分がありましたし、「松尾初秋議員」というところで、そここのところでなかなか判断できなかったんですけれども、聞いた部分では聞こえづらいという部分がありました。（発言する者あり）敬称がなく、呼び捨てるように聞こえたということで、こちらの部分でさきに陳謝していただきました。これはここで前回は言いませんでしたけれども、その部分でよかったのかと思い、こういう説明をしております。

次に、ケーブルテレビの件であります。

ケーブルテレビの件ですけれども、これも17番吉原議員さんが12日の夜の放送の分ですけれども、夜の放送の分がなかったというのが翌日朝、私もこちらのほうに登庁してきたときに伺いました。さきにケーブルテレビさんのほうは来ていらっしゃいませんでしたけれども、その話を聞いて、事務局よりケーブルテレビのほうに連絡していただき、それで内容を聞きたいということですぐ来ていただきました。吉原議員さんの放送が何でなかったのかというのは、今、コンピューターのサーバーで管理していて、何かしらのバグが起こったのだろうと、原因についてはなかなかわかりづらいということで、調査、今しているということでした。人為的な、普通の昔みtainなマスターテープの部分ですと、その原因もわかりやすいですけれども、サーバー内でバグったということで、その調査がなかなか難しいので、今調査していますけれども、わかりづらいということでした。

ただ、吉原議員さんの放送が流れていないということは事実ですので、当の本人の吉原議員さんにちょっと来ていただいて、どういうふうな処置をしましょうかというふうに相談したところ、ケーブルテレビ側も一緒に来まして、翌日の質問の終わった時点で再放送をしていただくということでよろしいということで吉原議員さんからも御返事をいただきました。

途中経過をここで言っていなかったのは、大変申しわけないと思っています。そういうことができました。

その翌日、今度は松尾初秋議員の最後の部分が切れていたと、再放送の分がですね。再放送の部分の松尾初秋議員さんの最後の部分が切れていたということで、今度は松尾議員さんから聞きまして、ケーブルテレビさんも来ていらっしゃいました。ケーブルテレビさんも来ていらっしゃいまして、今度は何で、きのうと同じようにコンピューターのバグが起こったのかというふうな形で聞きまして、コンピューターのバグではなくて、今度は人為的ミスだそうです。一番最初と最後のところのそここのところを入れ間違いをしたので、そのところで失敗しましたと。さらに、チェックがあるでしょうという形で言いましたら、チェックの部分もそれも見過ごしてしまったと。2回目は人為的ミスですということで陳謝にられました。

これは前回はバグ、今回は人為的ミス。連続して起こりましたので、今度は同じ部分で松尾議員さんにお伺いしたところ、また、再放送をしていただくということで御納得していただきました。これもこの場で皆さん方に報告は怠っておりました。申しわけございません。

以上のような形でケーブルテレビさんにはもう二度とこういういったことがないようにと、副議長さん、議運の委員長さんともども強くお願いといたしますか、強く要望しまして、再放送ということでさせました。

〔23番「議長」〕

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）

だから、私が言っているのは、そういう内容をなぜあなたが言わないのかということなんですね。例えば、ケーブルワンがすみませんでしたということであれば、皆さん、こういうことがありましたよと言ってやれば、全市民がテレビ見ていますから、ああそういうことだったのかと、ああ故意じゃなかったんだな、あるいはまた、吉原さん、このときやっぱり一般質問したんだなとわかるんですよ。だから、あなたがとどめとることがわからない。陳謝に来られたというのであれば、皆さんこういうことでしたよとつないでいいじゃないですか。なぜそれをしないんですか。

先ほどの松尾初秋議員の中身、ここで詳しくとろとろ言って——私が言っているのは、そういうのをなぜちゃんと整理をしないのかと言っているんですよ、議事の進め方として。何かあった場合は、緊急な場合で、後で調べることいっぱいありますよ。後で調べるという、この後でちゃんと報告するのがあるから、みんなそれで納得するじゃないですか。しかし、あなた、今言うまで、今までする気なかったでしょう。私、慌てて今戻りましたけど。そういったのは皆わからないんですよ。吉原さんはわかったかわからん。松尾初秋議員はわかったかわからん。しかし、一般の人はわからないんですよ。吉原さんなら吉原さんに対するいろんな支持者もおられます。初秋議員は初秋議員、いろんな支持者もおられます。そこで、あなたが今言われたことを言ってくれば、ケーブルワンさんも、ああ、ちゃんと謝罪されたんだと皆さんわかりますよ。ケーブルワンさんが皆さんに言わなくても、あなたがここで言ってくれば、原社長も顔いいじゃないですか。なぜそういうことを言わないんですか。

それに引きかえ、宮本栄八議員が何か知らんけど、名誉毀損で訴えられそうになったから、慌てて走ってきたという話もありますよ。そういうのだけ助けてね。じゃ、順番があるやないかって。彼は議会に対して懲罰委員会で言われたことを守っていないんですよ。そこをちゃんとやっていいじゃないですか。お互いけんけんごうごうやっても、宮本議員とやっても、同じ同士じゃないですか、26人はみんな。お互い幅いっぱい言うかわからんですけれども、議会という土俵の中にみんないるんですよ。行司はあなたでしょう。そのように差し違いがあつたいかんですよ。なぜ言わなかったんですか、再度求めます。

○議長（牟田勝浩君）

まず1つ目、松尾議員さんの敬称が抜けていた部分に関しては、一番最初、ここで副市長さんが謝罪されたんで、これ以上いいのかなという形で思っておりました。

続きましてのケーブルテレビの部分は、本来ならば、ここで確かに今お伺いしましたように、言ったほうがいいかもしれないというふうに思いましたけれども、その場では、後で議運のときとか、放送を言えばいいのかなと。議運というのは後ですから、後でつけ加えたとされるかもしれませんが、一般質問もありましたので、その部分で言わなくていいのかなと思い、その部分は報告しておりませんでした。これが非常に皆さん方に大きな瑕疵を与えたというのは、本当ここで申しわけなく思っております。

[23番「議長」]

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）

あんまり長く言ったら嫌われますからね、言いませんけれども、結局、私、野球はできないんですけど、野球の審判と一緒にですよ。この審判が低目が好きだということであれば、低目を投げますよね。高目が好きだと言ったら、高目を投げますよ。あなたがそういう姿勢だったら、今からの議会はそうにみんな考えざるを得ないと思いますけれども、最後の答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

今、例えて黒岩議員さんからありました。途中数々いろんなそういう報告が抜けていた、そのような配慮が足らなかったというのはあると思います。これからそういうのを注意しながら、例えば、副議長さん、議運の委員長さん、いろんな方々と相談して、皆さん方に御迷惑をかけないようにやっていきたいと思えます。